

1 学年だより

夢の宅配便

1 年学年主任
水野 喜代治

水野 塾！

NO23

教育実習でゴキ塾で勉強を教わることになった生徒は、3年卒業するまで私の家に「勉強教えて」と通ってきました。「高校に行けない」と嘆いていた生徒たちでしたが、自分のいく先を決めて、入試まで勉強をあきらめずに努力することができました。そして受験した高校に合格することができました。勉強がわかるようになることがどれほど生徒にとって嬉しいことなのかということをおぼろげに実感しました。

私は、大学を卒業して逗子市の中学校で教員となりました。私のクラスに変形の違反制服を着て、髪を茶髪に染めて、日常的に授業離脱を繰り返す生徒がいました。学年主任の先生が「服装を直しなさい。授業をちゃんと受けなさい。」と指導しても「うるせえ！関係ねえ！殺すぞ！」などと暴言を吐いて指導に全く従いませんでした。私は、その生徒の保護者と面談して、勉強を教えたいので、夜に家庭訪問させて欲しいことを伝えました。「先生、うちの息子は、先生が来るのを嫌がると思います。先生がせっかく勉強を教えてくれるのにひどい態度をとると思います。」と心配そうに答えました。「私もそう思いますが、家庭訪問させてください。」とお願いして、夜に家庭訪問をすることになりました。彼の家に行くと部屋から出てこないで私と会いたくないということで何度も帰されましたが、部屋から怒鳴り声もせずに私と会うという日が来ました。部屋に入ると、彼は、小学校の時のアルバム写真を見ていました。「サッカーやっていたんだ。ユニホーム姿かっこいいじゃん！」と私がアルバムを覗き込んで話しかけると、机の上のトロフィーをもってきて「これ、地区の大会で優勝したんだ」と私に見せてくれました。「すごいね、先生も高校の時にサッカーやってたんだよ。でも先生は2軍で、試合に出ると自殺点を決めちゃったよ。」と話すと「まじ、先生、へたくそだね」と彼が初めて私のことをお前とかでなく「先生」と呼びました。「勉強を一緒にやろうよ？」と投げかけると「するわけねえだろう！馬鹿！帰れ！」と急に機嫌が悪くなりいつもの暴言を吐きました。「わかったよ！ごめんね！また明日来るよ。数学やろうね！」と投げかけると「絶対来るな！」と私に言って背中を向けてしまいました。

次の日に、またいつものように私は家庭訪問しました。部屋から「来るな！」の怒鳴り声もなかったので部屋のドアを開けてみると彼がうつ伏せに寝ていました。そして机の上に数学の本が置いてありました。私は嬉しくて、その日、初めて彼に勉強を教えることができま

した。マイナス、プラスの計算ができました。一時間ぐらい勉強して「また、明日ね頑張ろう！」と私が言うと「嫌だよ」もいわずに彼は無言でいました。勉強して1週間ぐらいたった時に、「はい、今日はここまで、また明日頑張ろう！」といつものように言うと「ありがとう」と彼が返事をしました。私は、びっくりすると同時に涙が出るほど嬉しかったです。Xを使った文字式ができるようになったので、いよいよ方程式を教えました。何日間か苦戦しながら一緒に勉強して方程式が解けたとき、彼が私に「先生、俺足がふるえているよ。方程式解けたね。」と笑顔で話しかけてきた。私もうれしくて「頑張ったね！」と彼に言葉をかけました。次の日、教室に入ると変形ズボンでなく標準のズボンをはいた彼が座っていました。そして、その日は授業も離脱しないで一日授業を受けました。私は、彼に特別な声もかけないで笑顔で彼と接しました。その後、卒業するまで彼との夜の勉強は続きました。卒業式の日には彼は標準の制服に黒髪で式に参加しました。呼名に大きな声で「はい」と返事して卒業証書を受け取りました。

あれから、約35年ぐらいの月日が流れました。いつの間にか日本の学校から校内暴力はなくなりました。荒れた中学校を見ることもなくなりました。変形した制服を着ている生徒などどこを探してもいなくなりました。暴走族などにあこがれる生徒も見当たらなくなりました。でも、ゴキ塾は名前を変えて水野塾として続いています。今年の1月に城山中学校の3年生と勉強をしました。入試に向けての勉強をしました。3年生の男の子と数学の勉強しているとき、平方根の計算が解った生徒が、「先生、平方根が解った！嬉しい！足が震えます。」と私に話しかけてきました。その言葉を聞いたときに、私は逗子の時の生徒を思い出しました。どんなに時代が変わっても、どんなに学校のスタイルがかわっても、生徒と先生のつながりは変わらないと思いました……。

おわり。